

飯舘村スタディーツアーを終えて

国際交流学科4年 AN

今回四回目のスタディーツアーを終えて、自分の中でこれまでとは違ったツアーであり、また改めて様々なことを考えさせられるものになりました。

今回のスタディーツアーの中でこれまでと違った点は、自ら二日間の大体の日程や宿、食事処などを考えて、初めて参加してくれる後輩たちにとってどうすれば充実した二日間になるかとても考え行動したということでした。また、地元福島の魅力を存分に伝えたいということの特を考えていました。今回の経験を通して、福島が地元である私だからこそはずれがなくピンポイントでみんなが望む場所や食事を提供できたのかもしれないと思いました。また、今回のツアーが楽しかったと言ってくれる後輩が多く、自分自身やりきったという思いと同時にとても嬉しかったです。

飯舘村の現状を見るのは四回目でしたが、はげ山がもはや山でなくなってしまい更地に近い状態であること、フレコンバッグの山が以前より多くなり田んぼだったところには余すことなく置かれている状態である現状を見て、一年前に菅野さんたちがおっしゃっていたこと、心配していたことが現実となっていると思いました。たった一年でここまで変わってしまうのかと改めて放射能汚染の怖さを知りました。村民がこの地に戻ってきて前と変わらない生活を送るようするための対策が、放射能汚染の除去しかされていないということに、来年からの不安を感じました。村の現状を訪れる度に見ることで、今後の環境問題についての考え方、少しでも大きなリスクがあることに対する見方に自分の中で変化があり、飯舘村をきっかけにリスクについて以前より考えるようになりました。

次回から個人的にやりたいと思うことは、村内の現状を見るだけでなく、ちえこさんと一緒に田舎のお料理教室をやりたいなと思いました。菅野さんの家でとれた野菜を使ってみんなで料理をして、菅野さんのお家に来てくれるたくさんの人とご飯を食べたいと思いました。その時に、来年「大学はおいしい」に出店するものについてのなにかいいアイデアが出せればよりよいのではないかと考えています。